

アルコール症とその治療

十段階法を中心として

札幌太田病院

太田 耕 平



著者略歴

- 1941年 秋田市生まれ
1959年 札幌西高卒
1966年 札幌医科大学卒業
1971年 札幌医科大学大学院修了 医学博士
神経学・精神医学専攻
1974年 医療法人 札幌太田病院長
現在 札幌医科大学非常勤講師 札幌市医師会理事 北海道精神病院協会理事
札幌市連合断酒会顧問、北海道断酒連盟顧問
札幌市立琴似中学PTA会長
札幌市中学校PTA連合会会長
札幌市PTA協議会副会長
勤務先 札幌市西区山の手5条5丁目
医療法人 札幌太田病院 Tel 011-644-5111

アルコール症とその治療 十段階法を中心として

第1版 昭和56年1月15日

第2版 昭和57年1月30日

第3版 昭和60年1月30日

著者 / 太田耕平

発行者 / 医療法人札幌太田病院

制作 / 株メディカル・プランニング

札幌市中央区大通り西6丁目

(北海道医師会館・2F)

〒060 電話281-2671(代表)

自序

札幌医大の神経精神科教室を辞して医療法人太田病院に正式に勤めたのは昭和四十九年四月であつた。早いもので満七年がまたたく間に過ぎ去ろうとしている。老朽化した木造病棟の改築や二十年の歴史をもつ労働組合との交渉などが思い起こされる。

時代の変化と共に精神科領域の疾患構造も著しく変化し、近年、アルコール中毒やシンナー乱用などが著しく増加してきた。この七年間で当院が治療的にかかわったアルコール中毒者は五〇〇名を越えた。アルコール中毒者は再発が多く、どうしたら治癒率を上げられるかということと、どうしたら早く退院させられるか（回転率の向上）を関心の中心として診療に当たってきた。そのためには退院後の予後の調査も必要であり、各症例がアル中になった原因を正しく把握することも大切であり、否応なしに症例に関する調査や研究が必要になってきた。我々臨床家にとっての研究は、どうしても実地臨床に密着したものにならざるを得ないし、また、その成果を直ちに自分の診療に *feed back* するという利点もある。

本書はこのような我々の七年間のアルコール中毒治療の模索の記録である。身近な経験から着想した十段階法は、その採用により治癒率の向上を来たしつつあり、さらに今後の工夫改善を検

討したい。

当院のアルコール中毒専門病棟の落成を機会に従来の研究や執筆したものをまとめ、本書を出版することとなった。御協力頂いた加藤、久慈両副院長、石沢内科医長、築地主任を中心とするケースワーカーの方々、さらに橋本、岩崎両心理検査員に深く感謝する次第であります。

本書の出版にあたっては、種々御配慮頂いたメデイカル・プランニングの谷口昭夫氏、杉本律子氏に深く御礼申し上げます。

昭和五十五年十二月二十五日

第二版の序

第一版を出版して早くも一年を経た。この間には母の死亡や我家の火災など大きな事故が重なった。しかし周囲の方々の暖い励ましにより無事に乗り越えることができた。

一方、アルコール病棟二階は昨年二月一日にオープンし、同一階病棟は六月一日にオープンした。両病棟共にほぼ満床となり順調にその機能を果している。関係者各位に深く感謝したい。

昭和五十七年一月三十日

第三版の序

第二版を出して早くも三年にならんとする。昭和五十六年二月にオープンしたアルコール病棟は順調に機能し満三年をすぎた。この間山の手断酒会も発足し単身アルコール症者への力強い味方となっている。

一方、近年は青少年の症例、特にシンナー乱用、各種の非行、登校拒否などが急増しており、その対策や学習に追われている。この第三版では、青少年の思春期障害に関する頁が増えたのもそのためである。

この三年間の当院の診療に協力賜わった石沢副院長、新ヶ江先生、相沢先生、築地主任をはじめケースワーカー、庄司婦長以下看護職員、他の職員に深く感謝いたします。

本書の出版にあたり種々御尽力賜わった川崎志美氏、メデイカルプランニングの日沖充氏に深く御礼申し上げます。

昭和六十年一月三十日

目次

自序

I アルコール中毒の心理

アルコール中毒の心理—正しい理解と治療のための模索—

一、酒と心の「経済」

はじめに 酒害者の原因療法は？ なぜ酒を飲むのでしょうか 心の経済
晩酌の心は……

二、中毒の完成

酒量は増えやすい 中毒の完成 なぜその人が中毒になるのか 家庭環境について

三、中毒と性格のかかわり

なぜ性格を論ずるか 中毒者の病前性格 中毒になりつつある人の性格変化
性格変化の完成 行動や考え方の反省 男の心と女の心の自覚と反省 父の心と母の心の自覚と反省 断酒と自覚による性格の改善と向上 アルコール中毒の心理療法

おわりに

II アルコール中毒の心理療法—十段階法

アルコール依存者に対する十段階からなる教育的精神療法

アルコール依存者への十段階療法

第一段階 第二段階 第三段階 第四段階 第五段階 第六段階

第七段階 第八段階 第九段階 第十段階

十段階法の有効性について

アルコール中毒の心理療法

はじめに

一、入院中の心理療法を進める上での五つの基本的考え方

二、心理療法の十段階

第一段階 第二段階 第三段階 第四段階 第五段階 第六段階

第七段階 第八段階 第九段階 第十段階

アルコール症と心身症—十段階法の発端を中心に

はじめに

一、神経性食思不振症とチックの治療経験

神経性食思不振症の一例 チックの一例 この二症例の共通点と要点

アルコール症とこれら二症例の類似点

二、アルコール症の一例

入院前後 生活史 治療的接近 治療による精神面の変化 断酒の必要性

とその実現のための教育 治療の最終目標

三、十段階とした理由

四、アルコール症の総合的治療

おわりに

アルコール中毒者におけるWAISの特徴

一、目的

二、方法

三、結果と考察

全体の結果

知能段階による差異

年齢による差異

教育歴による差異

職業による差異

入院回数による差異

振戦せん妄発症の有無による差異

予後による差異

四、要約

III シンナー乱用と治療

シンナー等有機溶剤乱用者の実態と治療

はじめに

一、対象

二、調査結果

年度別新患者数

精神科初入院年齢

精神科初入院時の年度別平均年齢

初吸

引年齢 乱用者の同胞間順位

精神科入院回数

シンナー等の吸引の契機

使用薬剤と頻度

学歴

結婚歴

職業

補導・非行及び犯罪歴について

生育期家庭環境

親の職業

乱用者の飲酒状況

臨床心理テスト

自殺傾向

90

90

89

89

84

77

76

76

76

75

73

72

向について 予後 治療 治療の実際

三、考按

崩壊家庭とシンナー乱用 性格傾向と乱用

まとめ

IV 覚醒剤乱用者の社会・心理的背景

V 少年非行の背景と治療

VI 登校拒否の治療

VII 精神科医療について

入院精神病患者の入院生活と自己に関する意識調査

序

一、対象と調査方法

二、質問表について

三、結果と考按

入院生活でつらいこと 入院生活で楽しいこと 病棟内の友人について 入

院理由について 入院生活について 閉鎖病棟について 自己が病気である

ことについて 病気の原因について 向精神薬について 医師や看護婦に対

する希望

総括

精神科外来での偶感

最近の精神科医療とケースワーカー

171

一、現代社会の心理的危機

173

二、最近の精神科外来にみる疾患構造の変化

176

三、最近の精神科医療の進歩

179

四、精神科医療の問題点

180

五、精神科医療とケースワーカーの役割

181

精神科における頭部CTの話

185

狭義の精神病の診断に関するCTの必要性について

192

精神科領域での臨床心理テスト併用の意味について

195

VIII

現代の家庭と子供の精神衛生

現代の家庭の問題点とあり方

201

家庭と子供

206

PTA勉強の記

211

PTA活動の目標はあくまでも「子供の健全育成」である

214

卒業生の皆さんへ

217

非行少年に対する精神科医からの対応

219

IX

アルコール中毒をめぐる

225

スウェーデン断酒会全国大会体験記

225

スウェーデンの一女性アル中

231

しらかば会（アルコール症者の会）創立10周年を祝って

238

スウェーデンのアルコール症

241

女性のアルコール中毒の増加に思う

245

女性アルコール症と女性断酒会

249

「サルビア」の創刊を祝して

256

アルコール中毒は治る

258

アルコールと肝

261

アルコール専門病棟の完成にあたり

264

X

看護婦と看護学校

看護婦に関すること

273

准看護婦不足と偏在について

281

時の流れ

284

心豊かな人生を祈る

287

XI

医療法人札幌太田病院関係の学会発表

Ten-Step Method of Educational Psychotherapy to Alcoholics

193

Ten-Step Method of Educational Psychotherapy to Alcoholics

197

アルコール症に対する交流分析

303

	アルコール中毒症の精神、心理的発生要因	306
	アルコール中毒者99名についての臨床統計	309
	当病院におけるアルコール中毒者の動向について	310
	女性アルコール症者22例の検討	313
	アルコール中毒者106名のWAISの検討	314
	アルコール症におけるWAISの特徴	316
	アルコール症と臓器障害	320
	血中膵ホルモン(インスリン・グルカゴン)の変動からみた	322
	アルコールの病態分析(第一報)	325
	血中膵ホルモン(インスリン・グルカゴン)の変動からみた	325
	アルコールの病態分析(第二報)	325
	DDT急性中毒の一生存例	328
	幼児期に始まり20年間継続したHicの一例の検討	329
	遷延性一酸化炭素中毒のCT所見	330
	シンナー等乱用者の研究	331
	精神科領域におけるCTスキャン	333
	長期断酒者の夜間睡眠の特徴	334

アルコール中毒症の精神、心理的発生要因	306
アルコール中毒者99名についての臨床統計	309
当病院におけるアルコール中毒者の動向について	310
女性アルコール症者22例の検討	313
アルコール中毒者106名のWAISの検討	314
アルコール症におけるWAISの特徴	316
アルコール症と臓器障害	320
血中膵ホルモン(インスリン・グルカゴン)の変動からみた	322
アルコールの病態分析(第一報)	325
血中膵ホルモン(インスリン・グルカゴン)の変動からみた	325
アルコールの病態分析(第二報)	325
DDT急性中毒の一生存例	328
幼児期に始まり20年間継続したHicの一例の検討	329
遷延性一酸化炭素中毒のCT所見	330
シンナー等乱用者の研究	331
精神科領域におけるCTスキャン	333
長期断酒者の夜間睡眠の特徴	334

アルコール摂取と血中ミオグロビンの動態	337
単身無職アルコール症者の治療と退院後の援助	340
慢性アルコール症者の予後良好群と予後不良群との比較	343
登校拒否における内観療法の有効性	348
ある登校拒否の症例	349